

届け 世界の果てまでも

令和3年11月12日

No. 44

文責 校長 飯久保一男

親はほめられない

担任をしていたときの個別懇談で、あるお母さんの子どもへのかかわり方を「ステキですね」と言ったことがありました。すると、そのお母さんが「親になって初めてほめられました」と言ったのです。ちょっと驚きました。でもよく考えてみましたら、確かに私も、親としてほめられたということは思い当たりませんでした。



親はしっかりやって当たり前、子どものためにがんばるのが当たり前、しっかりやらなければ文句を言われます。夫（妻）や、^{しゅうと}舅・^{しゅうとめ}姑に文句を言われること、はたまた、親戚にまで文句を言われることもあるかもしれません。子どもの同級生の親やご近所からも苦情がくることもあるでしょうか。そして、教員からも…？

テレビでは、コメンテーターが「最近の親は…」「最近の学校は…」と偉そうなことを言っています。いわゆる専門家から自称専門家まで、有識者や教育評論家でしょうか。それに乗っかって、タレントや芸人までもが偉そうなことをよく言っています。きっと素晴らしい子育てをした方々なのでしょう。

「むむっ…」かくいう私自身も、最近この紙面で、子どもへのパワハラや親のストレスのはげ口に子どもがなっているなどなど、偉そうなことを書いてきましたが、かなりの部分で自戒を込めて書いています。

…そうはいつでも、教員経験37年、少しは教育を語る資格はあるかなあと思っています。

☆ 誰もほめてくれないのなら、自分で自分をほめちゃいましょう。

<その1> 部分をほめてみましょう

全体を漠然と考えては、ほめられません。少しでもできている部分を見つけ、ほめてみましょう。そのためには、できていない部分には、目をつむることも大切です。

- 細かいしつけができない？
そこには目をつむって…、子どもを許すことの上質な親ではないでしょうか。
- 片づけをさせられない？
そこには目をつむって…、散らかすのを気にせず、子どもと一緒に遊んでやれる親ではないですか。
- 学習をやる気にさせられない？
そこには目をつむって…、子どもがやりたがることをたっぷりやらせている親かもしれません。

<その2> 一歩下がってみましょう

人は誰でも理想を追い求めて、現実よりも一歩先を見て考えてしまいがちです。一歩下がって、ありのままの姿をほめましょう。

- 子どもにとって栄養バランスのとれた食事が準備できない？
忙しい中、準備できたことが立派じゃないですか。子どもが完食したら最高だと思いませんか。

<その3> 苦手や短所を言い換えてみましょう（リフレーミングといいます）

固定したフレームだけで見るとは、別のフレームで見直してみるという意味です。

- 子どもがだらしない？
別のフレームで見ると…、のびのび育ててきている子どもということではありませんか。

大前提として、この世に一人の人間を誕生させたことが大きな偉業です。
 一人の命を誕生させ、ここまで育ててきました。
 どれもこれも簡単なことではありません。
 あれこれ厳しい条件の中で、精一杯やってきたことと思います。
 そんな自分は、大いにほめてやりましょう。



「やる」と「あげる」のつかい分けについて

「やる」は乱暴な言い方で、「あげる」は丁寧な言い方ということではありません。「～してやる」というと上から目線の言い方に感じるかもしれませんが、「あげる」には尊敬の意味が込められますので、目下や身内、自分には「やる」をつかうことが正しいとされます。「子どもをほめてあげる」「自分をほめてあげる」などの言い回しは、本来の意味からすると「ほめてやる」をつかい、どちらも正しくないつかい方になります。しかし、文化庁によると、最近は美化語として目下や身内にも「あげる」をつかうことが認められているとのこと。日本語は時代とともに変わっています。さて「^{てい}丁字路」と「^{テイ}T字路」ではどちらが正しいでしょう？ ←昨年書いた記憶があります。

『パパのおやすみをおねがいできる？』

自営業をはじめて6年がたちます。不況下のことですので、とても順風満帆とは言えないのですが、9歳の息子、3歳の娘を思いながらアクセクと、毎日昼も夜も一所懸命に働いています。

どれだけ忙しくても、夕食だけは家族一緒にとれるようにしているのですが、ある日の夕食のときに、クリスマス話題になりました。

「そろそろサンタさんをお願いしないと、サンタさんがプレゼント選べなくなっちゃうよ。」

そう言った私に息子は、

「ほしいものがいっぱいあって、まだえらべてないよ〜。」

と言いました。

「じゃ、どれがいいか選ばなきゃ。明日の夕食までに考えておいて。」

私はそう言ってまた仕事に戻って行きました。

次の日の夕食、私は息子に問いかけました。

「どれがいいか決まった？」

「んとねー。サンタさんのプレゼントって…」

息子はもじもじしながら、

「パパのおやすみをおねがいできる？」

聞いた私はびっくりしながら、

「どうしてパパのお休みをお願いするんだ？」

と聞くと、

「パパのおやすみももらって、いっしょにサッカーしたりあそんだりしたい。」

そう笑顔で答えたのです。思い起こせば、夕食を一緒にとるのが関の山で、子どもと一緒に長い時間遊んだことはありません…。

子どもがおもちゃより欲しがる私と遊ぶ時間です。この子の父親になれたことを誇りに思うとともに、これからは時間を少しでもあけて子どもと遊ぶ時間をつくろうと反省しました。

「親孝行にまつわるいい話」より

